

FUKUSHIKEN JOURNAL

“福祉研ジャーナル”

高齢者や障害者のための施設を専門に設計する、日比野設計+福祉施設研究所が発行するフリーペーパー。高齢者・障害者施設に関する情報や最新のプロジェクト等を紹介します。

vol.05
2024

TAKE FREE



01. エントランスとテラス

feature project

グループホームまんさく

福井県敦賀市の田園風景にたたずむ高齢者グループホームです。9人×2ユニット・18床と小規模で、利用者の個室からは畑や大自然を望むことができます。木造平屋とすることで、木質感を感じられるあたたかいしつらえとしています。地域の方々が気軽に立ち寄れる芝生の広場では、小学校帰りの子ども達の遊び場となっており、いつも賑わっています。それぞれの生活スタイルを尊重し、多世代が交流できる笑顔あふれる高齢者施設です。



02. エントランスホール



03. リビング



04. 交流広場

contents



01

visit day care center

設計監理を担当したデイサービスを訪問した様子をレポート

02

under construction report

工事が進行しているプロジェクトの現場をレポート

03

chief's voice

所長奥木による「時事と高齢者・障害者」

04

projects report

進行中プロジェクト等を紹介！

What's HIBINOSEKKEI + FUKUSHIKEN?

1972年に創業した「株式会社日比野設計」の福祉施設設計ブランド。日比野設計+福祉施設研究所が携わった施設は全国に及ぶ。株式会社日比野設計では、他にも幼児施設専門の設計ブランド「幼児の城」、幼児施設インテリア設計のブランド「KIDS DESIGN LABO」、カフェ&レストラン「2343 FOODLABO」や「2343 DEPARTMENT」、保育園「KIDS SMILE LABO」、マルシェ「ICHIGO MARCHE」を運営。施設設計と運営のノウハウを活かし、様々な事業を循環型の事業として展開している。

株式会社日比野設計 / hibinosekkei.com
 【本社】 〒243-0218 神奈川県厚木市飯山南 4-18-1 / 046-241-3339
 【支社】 〒243-0014 神奈川県厚木市旭町 1-7-3-3F / 046-230-6155

HIBINOSEKKEIのHPはこちら

| | | | | | |
|--------------|-------------------|--|---|----------------------------|--------------------------|
| HIBINOSEKKEI | youji no shiro. | 2 3 4 3 Farm and Market to Your table. FOODLABO | 2 3 4 3 Farm and Market to Your table. DEPARTMENT | ICHIGO MARCHE | |
| FUKUSHIKEN. | KIDS DESIGN LABO. | Nursery and Daycare KIDS SMILE LABO learn, play, eat, sleep, challenge with love | 2 3 4 3 Farm and Market to Your table. | KIDS SMILE LABO KITCHEN | HIBINOSEKKEI ENGINEERING |

利用希望者急増のデイサービスを訪問 縁ゆかり野田介護予防センター



活気あふれるデイサービス

猛暑が続く8月半ば、設計監理を担当した千葉県野田市にある高齢者のデイサービスセンター「縁ゆかり野田介護予防センター」（以下「縁ゆかり」）に伺ってきました。2023年4月にオープンした縁ゆかりは25人定員の半日デイという形で運営されていますが、中に入るとこの猛暑を吹き飛ばしてくれるような活気あふれる雰囲気でした。「自身の住み慣れた地域で出来る限り長く在宅で生活をするべきだ」という想いは、施設を運営する株式会社K・コーポレーションの館浦社長の強い理念となっています。

楽しい事が身体を動かす

利用者本人もご家族も、在宅での生活を希望する方は多いと思います。「縁ゆかり」では在宅で生活するために日常の動作である、トイレに行く・食事をする・お風呂に入るという基本的な動作が一人で出来るように体の機能低下を防ぎ、最低限の生活動作を維持するという事を明確に目標付けし、体を

動かす事の専門家である理学療法士が半日の活動カリキュラムを作り上げていきます。中にはテーブルで談話をしたり、オープンキッチンで調理をしたり、リハビリ機器での運動をしたり、短い時間の中で様々な活動を通して楽しく機能訓練が行われていました。職員も高齢者も皆が笑顔で楽しく過ごしているのが印象的な施設です。衰退していく身体の機能を維持していくというのは高齢者にとって簡単な事ではありません。ここでは機能訓練をするという感覚ではなく、この場所に来て楽しく会話をする・活動する事が、機能回復に繋がっていると感じました。

訪れる人も元気になる

職員も高齢者も、ここでの楽しい半日を繰り返しているうちに元気になっているのです。施設を訪れると私達まで元気をもらう事ができます。この猛暑で、この施設の特徴にもなっている外部の散策路や畑作業、足湯といった活動はさすがに難しい時期となっていますが、もう少し涼しくなると更に活動は活発となり更ににぎやかになるのではないのでしょうか。



参加費無料

理念共有が社福の未来を創る！

ワークショップ付セミナー

開催決定

開催日時・場所等が決定次第、福祉施設研究所 HP にて公表致します。



福祉施設研究所 HP

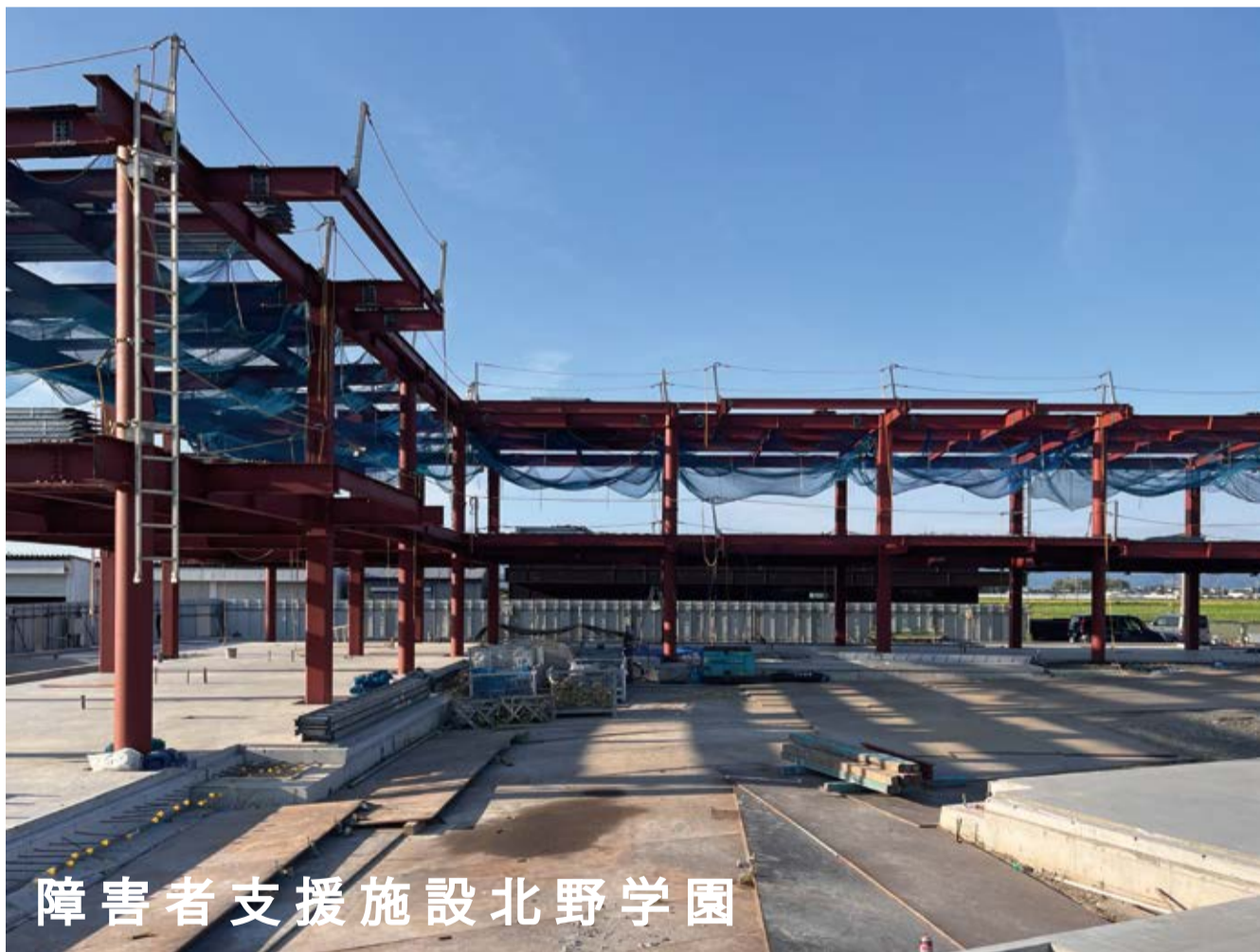
ただいま現場進行中

埼玉県春日部市の「縁ゆかり春日部センター」の増築工事が現場で進行中です。この日は基礎のコンクリート打設が行われ、平面的な建物のボリュームが見えてきたところです。建物の主要構造は鉄骨造ですが、基礎部分については鉄筋コンクリート造となり、こうしてコンクリートの中の鉄筋が生まれ、型枠をたて、コンクリート流し込んでいく作業は既存建物を利用する高齢者や職員にとっては新鮮な風景です。施設を運営しながら隣で建設工事が進んでいくのも楽しみのひとつかもしれません。

昨今の建設業界は職人不足や、職人の高齢化、労働時間の短縮などから工期が長くなり、価格高騰にもつながるといわれていますが、さまざまな問題を解決しながら工事は進んでいきます。なかなか先の読みにくい状況ですが、こうした時代でも物づくりの職人さんたちは頑張ってくれています。いよいよこちらの現場も9月末にはこの上部に鉄骨のフレームが立ち上がってきます。仕上げ材の最終確認や細かい機能的な要素を議論しながら現場は進んでいきます。春日部市の伝統工芸でもある桐箱の桐材をうまくアレンジしながら、外部には藤棚のある散策路を設け、地域の方々が気軽に立ち寄れる場所になればと考えています。来年早々のオープンに向けて今から完成が楽しみです。



縁ゆかり春日部センター



障害者支援施設北野学園

福岡県久留米市にて「障害者支援施設北野学園」の建替え工事が進行中です。

敷地周辺は川、山、畑に囲まれた豊かな地域です。運営中の既存建物と同じ敷地に新しい施設を建てる工事で、新しい建物ができたと、引っ越し、既存建物を解体、外構工事と段取りが多く1年以上の工期です。現在は鉄骨の建て方工事が始まっていて、やっと少しだけ形が見えてきたところです。同じ敷地内での工事のため安全に気を使いますが、利用者や職員にとっては新鮮な風景かと思えます。鉄骨工事が始まる前には鉄骨工場にて検査を行います。最近では工場での製作に3Dデータを用いるため以前より相互理解がしやすく、施工でのポイントもわかりやすくなってきています。

検査は部材の種類・大きさ・厚み・溶接の種類・溶接は適切に行われたかなど、設計監理者だけではなく、鉄骨検査専門の第三者も加わって検査を行います。

利用者がその日・その時の気分で選べるように大小さまざまな居場所を設けています。敷地が比較的広いこともあり、完成後はオープンな広場のある地域に開いた施設になる予定です。この広場を通じて利用者や地域が接点を持ち、地域になくはならない福祉施設になって欲しいです。



TOPIC 災害への備え

令和6年1月1日夕方、新年を迎えた楽しい時間は能登半島地震により一瞬にして緊迫した状況へと切り替わりました。TVもお正月特番が、一気に報道番組に切り替わり、避難を呼びかける報道、翌日からは甚大な被害状況を目の当たりにする事となりました。

建築設計を業としていく者にとって、地震や台風などの自然災害は常に気にしていますが、当時福井で工事中だった現場の状況が気になります。元日にも関わらず現場所長に状況確認をしました。敦賀市では大きな被害は出なかったようですが、現場で積み上げてきた構造体や仕上材の状況がとて心配でした。

各所での被害の情報は報道で伝わってきましたが、詳細な情報や福祉施設や利用者の情報が少ないなかでSNS等で生の状況を知る事もできました。古い住宅に住む方々は長く地元で暮らしている方が多く、高齢者の比率は当然高くなるという事と、一人暮らしも多いのではと感じます。

東日本大震災以降、津波対策や地震への備えで被害を軽減できた部分もあると思いますが、やはり高齢者や障害者の方々の避難やその後の生活はとて厳しく困難なものになるのではと心配になります。特に普段から自身の自立した生活においても日常動作がやっとなり、施設にも入らず自宅で過ごしている方も多くいると考えられ、こうした方々が有事の際の「避難」については大きな課題であると考えます。

もちろん消防隊や自衛隊などの支援はあるかと思えますが、「避難」というのは、少しの時間差で逃げ遅れて犠牲になったり怪我をしたり、場合によっては逃げられないという状況に陥る場合も考えられます。在宅で生活されている高齢者や障害者にとってはやはり地域の助け合いが、生死を左右するくらい大きな要素になりえるという事です。

地域福祉の活動の多くは社会福祉法人が運営している場合が多く、これまでの災害の経験から全国各地の社会福祉法人のネットワークで助け合いの輪がひろがり、震災後、他県の社会福祉法人のスタッフが被災地の社会福祉施設の支援に乗り出す活動も積極的に動いていること、また現地の介護スタッフも被災者であるため困っている方は多く、こうした支援の仕組みやつながりが強くなっている事は素晴らしい事だと感じています。

非常食や災害対策用品の備えも大事な事ですが、第一に地域での助け合いの意識や普段からの係わり、交流が大きな災害対策の一つだと思います。私達が設計でかかわる社会福祉施設は、地域の方々の福祉避難所としての役割も担っていかねばいけません。災害時に対するスペースや設備など出来る事、備えられる事は少なからずあります。地域の輪が災害に強い施設を創り、その集合が住みやすい安心安全な地域を創っていくものと信じています。

福祉施設研究所所長 裏木隆

PROJECTS REPORT

M Village project



愛知県豊田市で進めている障害者の施設入所・生活介護の支援を行う建築の建替え計画です。運営法人は「農ある暮らし」をテーマに掲げ、主に自然栽培での農作業を中心に日々の活動を完結しています。新築建物の工事は完了し、既存建物からの引っ越しも完了、いよいよ利用者さんが使いたい初めと進んでいきます。外構工事と進んでいきます。集落や村をつくるように棟を複数に分けそれぞれの役割に応じて建物を配置し、外観内観は華やかな装飾はせず素朴な空間を意識して建材を選定しています。床下に蓄熱槽を備え、輻射熱での冷暖房としており、室内の温度差が少ない快適な温熱環境としています。



中国からの訪問

ここ半年ほど中国からの高齢者施設の視察依頼が多くなってきたと感じています。コロナが落ち着き渡航しにくくなったこともあり、中国も日本と同様に少子高齢化が進んでおり、日本の介護の現状や運営方法などを知りたいというのが主な目的です。当社に依頼がある際は、実際に施設見学を行う場合（人数や季節による）とセミナー（大人数の場合）での事例説明とを行っています。日本では高齢者施設は社会福祉法人や株式会社で運営することがほとんどですが、国が異なれば制度も異なるため、まずは介護制度の仕組みから理解してもらう事になります。

TOPIC mini 進行中プロジェクト

障害者支援施設北野学園



福岡県久留米市にて進行中の四十年近く経過した障害者支援施設の建替計画です。入居する利用者の気分を盛り添えるように一同に介する場所だけではなく、少人数でも利用できるような広さを広さの居場所を計画しています。広い計画地を利用して建替後は公園のような広場も整備し、地域に開かれた施設になるようになり、開かれた広場が地域との繋がりが産み、関係性を育んでいくと考えています。

しかし、本当に重要なのは高齢者にとってどのような介護サービスが必要なのか、空間どのような空間を考え、それを実践できるかにあります。国や場所、制度が変われどその根本は同じだと考え、主にその理念を伝えるようにしています。



緑ゆかり春日部センター

埼玉県春日部市で運営されている高齢者デイサービスセンターの増築計画です。春日部市内でも人気の高い施設で、多くの理学療法士が在籍し専門的な知識で機能回復に特化したサービスを行っています。地域の高齢者の需要も高く、既存のスペースでは限られた人数でのサービスでしたが、より多くの方に利用してもらいたいという思いで定員を増やすこととなりました。道路との境には藤棚の散策路を設置し、誰もが立ち寄れるカフェスペースなど、様々な世代の方々の交流も含めて活性化できればと考えています。



福祉施設研究所 スタッフの近況！

STAFF NOTE
設計スタッフ いしやま ゆうき 石山 裕貴

PAPA'S DIARY
福祉施設研究所 副所長 まえしろ よしのぶ 真栄城 嘉敦

皆さんは謎解きは好きですか？

私は謎解きが大好きで最近ハマっています。謎を解く達成感や爽快感は心地よく、特に街歩きをしながら謎解きをするイベントが好きで、東京の街歩きの謎解きイベントにも参加しています。事前に買った謎解きグッズを手に東京都内を散策するのですが、まるで探偵のような気分です。謎を解きながら、様々な場所を訪れるのは冒険のようで胸が躍ります。街歩きと謎解きの組み合わせはただの観光とは一味違う、新たな発見が待ち受けている感じがするのです。今まで訪れたことがないような街角に隠れていたスポットやローカルな魅力に出会い、東京の新たな一面を知ることが出来ます。



日暮里の商店街で一息つきたいときに美味しいコロッケを食べたり、新橋の鳥森社に訪れたり、謎解きで訪れた町のローカルな魅力を味わい、新たな発見に心を躍らせながら、謎に挑戦することが謎解きと街歩きの醍醐味です。丸一日かかりますが、とても充実した日を過ごすことができ、今まで訪れた町にもう一度足を運んでみよつと新たな楽しみにも生まれます。また謎解きイベントがあったら「次の町には何があるんだろう？」と冒険に出かけるのが楽しみです。

「トートローにウォーター」

私の地元沖繩ではお仏壇でご先祖に挨拶する事を「ウォーター」と言います。「トートロー」は位牌の事です。今夏は沖繩のお盆に合わせて帰省し、息子は初めて沖繩のお盆を体験しました。ざっくりですが、初日がウンケー（お迎えの日）二日目がナカヌヒ（お見送りの日）三日目はウキイ（お見送りの日）ウンケーにはウンケージュシー（炊き込みご飯）を食べてお迎えして、ウキイはウチカビ（あの世で使うお金）を燃やしたあと、仏壇にお供えした食べ物やお花も一緒に入れ、また来年来てねーと一緒揃ってウォーターします。地域によって異なりますが、お盆の期間は各自自治会や青年会単位でエイサーが踊られます。道ジュネーと言って踊りながら地域を練り歩きます。息子は初めてみた道ジュネーに圧倒されていました。お盆をしっかりと体感しているようでした。



お盆に合わせての帰省は約十年ぶりだったこともあり、当たり前だった地域の事もとても貴重に感じるものです。

日々更新中！最新情報は HP、SNS をチェック！

福祉施設研究所 HP

福祉施設研究所 ブログ

福祉施設研究所 Instagram